

羽鳥自治会による 水害から命や財産を守る取組！

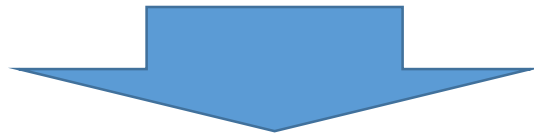
羽鳥自治会 小畑 吉弘

この資料は、受講生が地域デザインカレッジのプログラムの中で考えた企画を発表用にまとめたものです。自治会や町内会が組織として作成したものではありませんのでご了承ください。

過去の主な被害状況

- 1974年 七夕豪雨で久住谷川の土手が決壊、川沿いにあった家が流された
- 最近、水害に対する住民の不安は大雨の度に大きくなってきている

今年の台風15号でも久住谷川周辺で実際に被害がありました



台風通過後、自治会の役員会で被害状況の把握をしました

自治会の台風15号被害対応

- ・被災後の現地確認



- ・久住谷川護岸の崩壊、水路に土砂堆積、宅地・道路に土砂流出



- ・静岡市、静岡県に「改修工事要望書」提出→24件
 - ・住宅の床上浸水→1件、床下浸水→3件
 - ・宅地への土砂流出→3件
 - ・道路、水路決壊等→17件

台風15号自治会の反省と今後やるべきこと

- 自治会本部がやったこと
 - 被災現場の確認
 - 静岡市役所への要望書提出
- 反省
 - 自治会の対策本部を設置しなかった等羽鳥自治会防災要綱に則った行動ではなかった
- 今後やるべきこと
 - 羽鳥自治会防災要綱にある災害時基本方針の周知
 - 災害発生→災害があった区域の地区長に連絡→副地区長・班長→各地区災害本部設置→自治会長・副会長



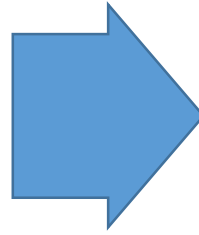
- 自治会会員へ回覧文書、会合で周知（R5.1役員会議）

既存の対策による効果

- ① 河床が低くなり氾濫の危険性は少なくなっている
- ② 砂防ダムの建設や水路の整備により流れてくる土砂は少なくなった
- ③ Web防災情報を見れば現地に行かなくてもリアルタイムで河川の水位等が分かり適切な避難行動がとれる

新たな課題

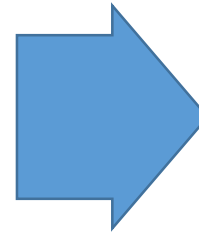
① 久住谷川の上流区域はまだ
石積箇所が多く残っている



河川の増水により、堤防
が決壊する恐れがある

河川の水位が上昇し、氾
濫する恐れがある

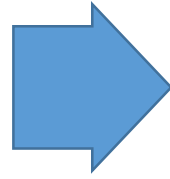
② Web防災情報を、
多くの住民は知らない



避難が遅れる

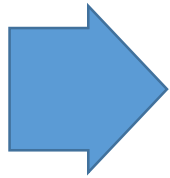
理想の姿

- ・ 災害危険エリアの住民



危険度を事前に把握できている

- ・ 被害が予想される台風や豪雨



住民一人ひとりがWebで防災情報（河川の水位等）を収集

発災前に適切な避難行動がとれる状態

新たな課題への対策と今後の計画

- ① Web情報（川の防災情報、キキクル、SIPOS RADAR）の閲覧方法を住民へ周知
 - ・ 回覧文書、会合等で周知（R5.1役員会）
- ② 住民の防災力を高める
 - ・ 避難地、避難場所の確認、過去の災害事例から教訓を学ぶ
 - ・ 令和5年6月末までに防災講座を開催する
- ③ 久住谷川の浸水マップ、マイタイムラインの作成
 - ・ マイタイムラインは講座受講後、各自作成
 - ・ 浸水マップは令和5年3月末までに自治会で作成